

100年経営シンポジウム



神戸製鋼所社長
佐藤 廣士氏

講演

オンリーワンを徹底追求

当社は1905年に鈴鹿に、という価値観が今も会社に残っている。神戸製鋼という社名が

は、経営資源が拡散しないよう、全てを大きくするのではなく、その中で特徴あるものを選び、それを成長させることも大事だ。当社では、いろいろな製品が、だんだんと際立って、野に横展開してきている。担当者の夢と、それをサポートする管理職として、変革を認める経営陣がいなくて、オンリーワンは出てこない。歴史を振り返れば、山あり谷ありで、どの企業でも、絶えず順風満



熱心に聞き入る聴講者

阪神・淡路大震災をのりこえて

次の100年に向けて

神戸製鋼所は1995年の阪神・淡路大震災で未曾有の大被害を受けたが、会社は100年を超えて継続し、今もなお歩いている。どのようにして危機を乗り越え、何がその一番大きな要因だったのかを考えてみたい。

めて実用化し、さまざまな分野で使われるようになった。建設機械では燃費、耐久性、乗り心地を追求した油圧ショベルとクレーンをつくっている。

総額は1000億円強だった。製鉄所が一番大きな被害を受けたが、当社のコアである鉄鋼事業の再稼働を急いだ。特に溶鉱炉と自動車メーカが待ち望む、バネ用鋼の圧延ラインはとにかく1日で早く復旧させたかった。1000億円を超えて、そして製鉄所の設備を一部撤去し、発電所をつくるなど、柔軟な発想や変化への対応、迅速で大胆な実行、組織の壁を越えた変革活動ができたことが大きな要因だった。

講演



キッコーマン名誉会長
茂木 友三郎氏

社会との共存共栄が必須

キッコーマンは17世紀から千葉県・野田で、うづくりを始め、現在は世界100カ国以上で製品を販売し、7工場が海外にある。売上高の海外比率は40%以上、営業利益は約60%を占める。千葉県のローカルなビジネスが国内のトップブランドになり、さらにそれがグローバルなブランドに育ってきた。

余り変わらない。生産量が戦前レベルに回復した。だが赤字を解消した。高度経済成長が始まるという状況の中で、売り上げの8割を占める主力商品の需要が伸びないのは一大事だった。そこで我々の先輩の経営者は二つの方針を打ち出した。一つは、しゅうゆが売れないならば他のものを売る。多角化戦略だ。もうひとつは、大豆や小麦の入手も

使うので、農家の皆さんと共存共栄が重要だ。と訴えた。この訴えが功を奏し、現地の人たちは納得してくれた。

むため、日本から派遣する社員は分散して住み、固まって日本人コミュニティをつくるな。当社は300年以上の歴史の中でさまざまな問題を抱えてきたが、問題を解決しながらそれを次の発展のステップに引き上げてきた。現在、日本は非常に大きな問題を抱えている。このピンチをバネにして、復活を目指すなければならない。

の立地を生かし、数百年かけて日本でナンバー1のシェアを獲得した。

確保されなければならない。だが赤字を解消した。高度経済成長が始まるという状況の中で、売り上げの8割を占める主力商品の需要が伸びないのは一大事だった。

そこで我々の先輩の経営者は二つの方針を打ち出した。一つは、しゅうゆが売れないならば他のものを売る。多角化戦略だ。もうひとつは、大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も

この地は米国の交通の中心地で、全土にしゅうゆを運ぶのに便利だった。大豆や小麦の入手も



会場には満席となる300人超の聴講者が訪れた

人と社会の豊かな未来を創造する

モノづくりフェア2011 開催

会期 2011年10月26日(水)・28日(金) マリンメッセ福岡 入場料 1,000円(税込み) 主催 日刊工業新聞社
10:00~17:00(最終日は16:00まで) 無料送迎バス運行 博多駅⇄会場⇄天神 展示会期間中、会場へのアクセスは、直行の無料バスをご利用下さい。

10月26日(水)

11:00~12:00

(テーマ) 九州の自動車産業への東日本大震災の影響と展望

(内容) 2011年3月の東日本大震災は日本のみならず世界の自動車産業に大きな影響を与えたが、その影響の深さを確認するとともに、その回復過程に現れた部品産業の再編過程とそれらも問題点を検討する。

(講師) 早稲田大学大学院 アシナメテ中野研究科 教授 早稲田大学日本自動車部品産業研究所 所長 小林 英夫氏

(企画主催) 日刊工業新聞社

14:00~16:30

(テーマ) 人口・資源・環境の制約を越えて九州から未来を創る

(内容) 東日本大震災後の日本で「低炭素」「責任感」など日本独自の価値観が見直されている。諸外国との競争の中でこうした価値観を生かしたモノづくりを提案する。さらに九州はスマートコミュニティの発祥地として知られるなど、この分野の先進地域でもある。自治体などの取り組みを紹介する。

第1部 特別講演「新たな価値創造を目指して～倫理資源大国・ニッポンのモノづくり」

(講師) 中興化成工業(株) 代表取締役社長 野野 直之氏

第2部 パネルディスカッション「スマートコミュニティ先端都市を探る」

(パネリスト) 福岡県 産業労働部政策監 [EVSITS(エビッツ)推進担当] 鈴木 高宏氏 北九州市 環境局環境未来都市推進室 スマートコミュニティ担当課長 柴田 泰平氏 (株)スマートエナジー研究所 CTO / ファウンダー 福岡スマートハウスコンソーシアム 代表 中村 良道氏

コーディネーター 九州大学大学院システム情報科学研究院 電気システム工学科 教授 山田 弘弘氏

(企画主催) モノづくり推進会議(今秋モノづくり日本会議に改称予定)

10月27日(木)

11:00~12:00

(テーマ) 産業用温水ヒートポンプの最新情報

(内容) 工場の冷媒排ガスが冷媒として利用されている熱源や、下水等へ冷媒を流す際の低減の技術や、最新の温水を建設的に供給する温水ヒートポンプの利便性と適用例を主に紹介する。

(講師) 三菱重工(株) 冷熱事業本部 ヒートポンプ事業推進室 室長 藤田 義典氏

(企画主催) 日刊工業新聞社

14:30~15:30

(テーマ) 人材育成研究会「九州におけるモノづくり人材の育成」

(内容) 少子高齢化や若年層のモノづくり離れが、次世代を担うモノづくり人材の育成が喫緊の課題となっている。九州における教育機関や産業団体の取り組みを共有する。

(パネリスト) (一社)福岡県経済協会 理事長 飯田 寛氏 福岡県工業技術センター 機械電子研究所 所長 神谷 昌男氏 福岡県立工業高等専門学校 校長 山本 久徳氏

コーディネーター (株)日鉄技術情報センター 代表 廣瀬 隆雄氏

(企画主催) モノづくり推進会議(今秋モノづくり日本会議に改称予定)

10月28日(金)

13:30~14:30

(テーマ) トップが語る地場自動車メーカー3社 今後の戦略

(内容) 2010年度の九州の自動車生産台数は103万台と、3年連続で100万台を超えました。全量における増減率は過去最高の12.2%となり、低燃費の削減という観点から今後その役割は高まる見込みです。本講演では九州地域で自動車を生産する3事業者の代表が今後の展望を語り合います。

(講師) 日産自動車九州(株) 取締役社長 野田 幸博氏 トヨタ自動車九州(株) 取締役社長 須藤 誠一氏 ダイハツ九州(株) 代表取締役社長 倉井 和樹氏

(企画主催) 九州自動車生産推進コープ実行委員会

(協賛) 九州自動車 二輪車産業振興協議会

詳しくはWEBで! ご招待券のダウンロードができます。 ※モノづくりフェア2011は有料(1,000円)となっておりますがご招待券をご持参の方は無料にてご入場いただけます。 講演会・シンポジウム・セミナー多数開催! モノづくりフェア 検索

展示会のお問い合わせ/日刊工業新聞社 西部支社 業務部 〒812-0029 福岡市博多区古門町1-1 TEL.092-271-5715 FAX.092-271-5881

http://www.nikkanseibu-eve.com/mono/ E-mail:monoinfo@media.nikkan.co.jp